

仏教保育

9

Sep.

伝えよう いのち 生命の尊さ ほとけ の心



福島のお土産色々



「第34回全国仏教保育福島大会」

平成28年7月30日・31日／ホテルハマツ（郡山市）

大会
テーマ

「合掌の姿に花は咲く」
被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育

7月30日・31日の両日、福島県郡山市のホテルハマツにおいて「第34回全国仏教保育福島大会」【主催：公益社団法人日本仏教保育協会、実施：第34回全国仏教保育福島大会実行委員会】を開催しました。

35度近い酷暑でしたが、全国から700余名が参加し、「合掌の姿に花は咲く」の大会テーマのもとで、人間本来の生き方である「向き合う・寄り添う・支え合う」という教えを、講座と実技などで改めて学び、保育に活かす研鑽を積みました。

福島は、原発事故に見舞われ、今もなお多くの方々が過酷な避難生活を強いられています。「被災地の復興状況と課題」と題した大井千加子さんの講演では改めてその酷（むご）さを突き付けられた思いをしました。又、バス3台を連ねて被災地（飯館村）を巡った（11分科会・130名参加）先生たちは荒廃した村の惨状を目の当たりにして、快適・利便さをもたらず原発が怖さと紙一重にあることに生命尊重の保育の要諦を再認識するなど、福島ならではの実り多い大会となりました。



吉永小百合さんからのビデオメッセージ



福岡県立安積黎明高等学校の合唱



献灯・献花 (須賀川幼稚園園児)



大塚
大会事務局長



保森
大会副委員長



神野
愛知県支部長



品川
郡山市長



畠
福岡県副知事



吉岡
大会実行委員長



緑谷
大会委員長



八木
大会会長

全体会

〔開会式〕

12時30分、八木季生名誉会長を導師としてお迎えし祭壇に向かって全員で合掌礼拝。福岡県立安積黎明高等学校合唱団による讃仏歌「いまささぐ」の歌声にのせて須賀川幼稚園児による献灯・献花がしめやかに行われ、三歸依文(パリー文)の合唱により、「第34回全国仏教保育福岡大会」式典の幕は上がりました。

その後、安積黎明高等学校合唱団部長の久保田菜々々さんによるメッセージの後、ミニ演奏会「福岡より感謝を込めて」と題し、復興ソング「花は咲く」「瑠璃色の地球」の歌声が披露されました。全日本合唱コンクール全国大会で連続36回の金賞受賞の実績を持ち、NHK全国学校音楽コンクールにおいても15回の金賞・内閣総理大臣賞などに輝いた伝統ある合唱団です。その限りなく透明なハーモニーに全員が魅了されました。

やがて舞台上に掲げたスクリーンから、女優の吉永小百合さんのビデオメッセージが流れます。「皆さま、ようこそ福岡へ。福岡の原発被害にとても心を痛めています。このようなことは二度とあってはなりません。これからの福岡のことを皆さんも共に考えてくださったらどんなに心強く嬉しいことでしょう。この全国大会が実りあるものになります。

とを、心からお祈りしております」と語りかける吉永さんの言葉は、聴く人のこころを「共振」させたようです。そのあと、大塚大会事務局長より、開会の言葉が発声されました。

はじめに、八木大会会長が「この福岡で全国大会が挙行されたことに、深い感動を抱いております。私には保育の経験はありませんが、幼児教育は生涯を決する大事な要であります。その大事な教育を担っていただけるのが先生方です。これからも頑張ってください」と挨拶されました。

続いて、緑谷大会委員長は「このようにたくさんのご来賓の方々をお迎えし、大勢の先生方の参加を得て本大会が開催できましたこと、有り難く思っております。今は亡き、元日仏保理事長の上村映雄先生が、原発事故発生後に『福岡で全国大会を開催して、福岡を元気にしましょう』と吉岡先生と話し合っており、きょうの日を迎えました。元気があふれるようオープンングセレモニーに、心から嬉しく思います。大会テーマに相応しい実りを期待しています」と激励の言葉がありました。

次いで、吉岡大会実行委員長は「皆さま、ようこそ福岡・郡山へお越し頂き有難うございます。5年前の大震災による被害での惨状は言葉で表わせるものではありませんでした。そんな折、当時の日仏保・上村理事長先生の励ましのお声を受け、3年前に協会を結成して全国大会開催を約しました。もとより加盟園も

少なく、支部結成から日も浅い私どもには、本部のご指導・隣県の大会経験の方々のご協力を得て、今日を迎えることができました。とは申しませんが、暑い思いを込めて準備をし、きょうを迎えました。どうか良い思い出を添えてお帰り頂ければこれに超す喜びはありません。それから、ぜひ当県復興のため、お土産など買って、たくさんお金を使ってください」と会場を笑わせながらも、大勢の参加への感謝と歓迎の言葉を述べられました。

このあと、「古屋賞」並びに「仏教保育精励賞」が八木名誉会長から授与されました。「古屋賞」は永年にわたる「仏教保育カリキュラム」の編集・刊行への労に対し、株式会社エフ・コーポレーションに贈られました。「仏教保育精励賞」は、保育現場において仏教保育に功労のあった先生へ贈られる賞で、寺西俊瑞先生(福岡県・白河幼稚園)に贈られました。



古屋賞受賞
(株)エフ・コーポレーション



仏教保育精励賞
寺西俊瑞先生
(代理)



ご来賓を代表して畠利行福島県副知事並びに品川萬里郡山市長からは交々、「福島を全国大会の開催地に選んで頂き感謝します。そして盛大に開催できましたこと、お慶び申し上げます。福島では原発事故発生以来、県民挙げて復興に立ち向かっており、被災者全員が一日も早くかつての住処に帰れるよう努力を続けています。また、女性が働きやすい職場環境づくり、待機児童解消に向けた施設整備への支援など、全力で取り組んでいます。どうか、これからも福島を応援してください。大会の実りの大きいことを心から願っています」とお祝辞を頂きました。

続いて、ご来賓紹介、祝電披露と続き、たから幼稚園・菱沼千紘（ひしぬまちひろ）教諭による仏教保育三綱領主唱のあと、大会を企画・運営された福島支部の労に対し支部旗と感謝状が贈呈されました。引き続き、次期大会開催地となった愛知県の神野哲州支部長（天白保育園・名古屋市）が、「愛知支部を挙げて大会開催に向けて努力し、『仏教保育は愛知でもっ！』（尾張名古屋は城で持つ）にかけ）の意気込みで取り組みます。2018年の夏は愛知で会いましょう。」と大会開催への意気込みを披露しました。全員起立して「仏教保育の歌」を斉唱。大塚大会事務局長の「大会宣言（案）」を満場の拍手で採択されました。

その余韻が静かに漂う中、保森大会副委員長の閉会のことばにより式典の幕が降ろされました。

福島支部へ感謝状と支部旗贈呈



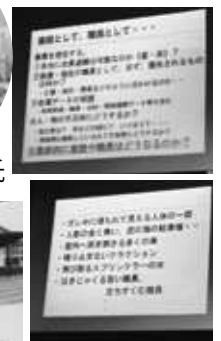
【講演】

大井千加子氏（特別養護老人ホーム「なごみの郷」元職員）による講演のテーマは「被災地の復興状況と課題」です。東日本大震災当時、勤務していた南相馬市にある「ヨッシーランド」という介護老人保健施設が津波に遭い、施設は全壊、入所者の大半が津波で流され、帰らぬ人となりました。大井さんご自身も流されましたが、奇跡的に助かり、入所者を懸命に救出されたそうです。

津波と同時に原発事故が発生。大井さんは絶望の中で入所者と各地をさまよいつながりながらたどり着いた特別養護施設「なごみの郷」に迎え入れられ、九死に一生を得たといえます。以来、津波で流された人たちのご冥福を祈りつつ、自然の猛威から自らのいのち、人のいのちをどう守ればいいのかを、貴重な体験の中から得たデータを示されながら講演されているそうです。「福島に見えた皆さんに学んで頂ければ、どの思いで壇上に上がりました」と冒頭で述べられ、当時の映像を示しながら、瓦礫に埋もれた隙間から見える人体、頭皮が剥がれ血まみれで震える人を救



大井千加子氏



出されたお話、声にならないうめき声を前に立ち竦んだというお話など何度も息が詰まりそうになり、涙なしには聞けませんでした。

【シンポジウム】

シンポジストに、星野英紀氏、千葉公慈氏、戸田了達氏の名をお迎えし、「現代に生きる仏教」をテーマとしたシンポジウムが開催されました。

『他者の喜びを自らの喜びとする人は、生きることの素晴らしさを施してくれる。逆に、自他の「いのち」を軽視した虐待などの残酷な事件も、私たちが生活している世界で起きている。だからこそ、「いのち・生命尊重・生きる力」とは何かを考

えましょう』という、テーマに込められた願いを、シンポジストは三人三様のお立場から、みほとけの教えを諄々と解いてくださいました。

清聴と緊張感の漂うお話でしたが、時おり笑いを誘い緊張感を適度にほぐす高木氏の洒落で絶妙なコーデイネーターぶりも見事でした。アツという間の2時間でした。

コーディネーター

シンポジスト



高木正尊氏

曹洞宗永興寺住職、成田保育園園長。日本仏教保育協会研究担当常任理事。



戸田了達氏

日蓮宗西中山妙福寺住職、妙福寺保育園園長、日本仏教保育協会研究部長、立正大学社会福祉学部講師。仏教情報センターテレホン相談員、日蓮宗相談室相談員として活躍されている。



千葉公慈氏

曹洞宗宝林寺住職、駒沢女子大学文学部日本文化学科主任教授。専門分野はインド仏教。TVの「お坊さん パラエティぶっちゃけ寺」にレギュラー出演され、得意即妙な会話で人気を博している。



星野英紀氏

真言宗豊山派宗務総長。真言宗豊山派福蔵院住職。大正大学の元学長であり現在は名誉教授で宗教学者として知られている。現在は原発事故被災寺院の調査研究をされている。

懇親会



司会・ペンギンナッツ



フラダンス (小松フラスタジオ)



乾杯・関岡参務



二本松提灯祭り
(竹田若連会)



梁川保育園の皆さんによる演舞「白虎隊」



ひょっとこ踊り
(郡山市指定重要無形文化財
「高柴七福神踊り」の中のひとつ)



次期大会開催地・愛知支部の皆さん

懇親会

およそ500名近い人がテーブルに着いた懇親会の会場は壮大な眺めでした。日仏保・関岡俊二参務による『乾杯』の挨拶が終わると梁川保育園の皆さんによる「白虎隊」の演舞が舞台で繰り広げられました。鶴ヶ城を眺めながら飯盛山で壮絶な最期を遂げた話は有名です。白虎隊の哀れを誘う詩吟は大塚大会事務局長が吟じられました。

食欲をそそる豪華な料理が運ばれてくる頃には「二本松提灯祭り」が披露されました。この提灯祭りは300年ほど前に『敬神の意を昂揚させるため』に二本松神社を祀り、神輿を収めたことに由来したものだそうです。激しい和太鼓の響きに併せて、舞台狭しと機敏に動く地元の若衆姿は圧巻でした。

アトラクションの最後を飾るのは、地元を代表する小松フラスタジオの皆さんによる「フラダンス」です。ハワイの伝統文化である華麗なフラダンスは、地酒の程よい酔いと美味しい料理とが相まって、一日の疲れも癒されたようです。

吉岡大会実行委員長が「手作りのおもてなし」だと話されましたが、気軽に舞台上がって歌ったり踊ったりできるのは、正に『手作り』ならではの楽しさがありました。福島支部の先生方、本当に有難うございました。

分科会

翌日は「分科会」です。先生たちはそれぞれ希望する会場で研究課題に臨みました。どの会場にも、福島支部の先生方の気

配りが行き届いて、快適に研修の実を上げたようです。

第1分科会
「生命尊重の保育を学ぶ」



第2分科会
「日常の保育の中の仏教の教えとは」



第3分科会
「新制度で仏教保育を生かすには」



 <p>第6分科会 「障がい児に対する指導と支援」</p>	 <p>第5分科会 「子どもの食から学ぶ 『いのち』を生かす保育」</p>	 <p>第4分科会 「『生きる力』『物語る力』 を育てる」</p>
 <p>第9分科会 「2歳児保育の意味と実践」</p>	 <p>第8分科会 「造形の楽しさと、 知っておくべきこと」</p>	 <p>第7分科会 「保育に生かそう仏教讃歌」</p>

<p>第11分科会 特別企画 「原発事故被災地フィールド ワークバスツアー」</p>	 <p>第10分科会 「東日本大震災で学んだ 危機管理と復興」</p>
---	--

**「第34回全国仏教保育福島大会」
を終えて**

大会実行委員長 吉岡 棟憲

去る7月30日(土)～31日(日)の二日間に亘って福島県郡山市を会場に開催しました第34回国仏教保育福島大会が無事終了いたしました。小さな小さな組織の福島県仏教保育協会が実行委員会を担当しただけに、周囲からは運営に関して心配の声が聞こえてきましたが、特別な失態もなく大成功の中、そして大きな成果を挙げて(自己評価)終了できたのは、これ偏に日仏

保をはじめ全国各地からの格別なご支援を頂戴したお陰であります。紙面をお借りして心より感謝し御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

今大会には会費納入参加者629名、懇親会参加者425名ありましたが、大会当日にはご来賓をはじめアトラクション出席者、出店業者、裏方関係などを含めると約800名もの方が会場に来てくれたことになりました。これだけ多くの人が足を運んでくれたのかと思うと夢のような二日間だったと今更ながらに感激しているところです。

さて、今回の大会テーマ「台掌の姿に花は咲く、被災地(ふくしま)で学ぶ生命尊重の保育の思いが参加者によく伝わったようで安心しました。開会式には、全国にその名を轟かせている安積黎明高校合唱団が登壇し、讃仏歌や復興ソング「花は咲く」などを披露して参加者の心を洗い、講演では「被災地の復興状況と課題」と題して被災現場の真実を語った大井千加子さんの話に全員が涙し聞き入りました。お楽しみ会の懇親会は経

費をかけない手作りの余興でしたが、保育士たちが踊る会津白虎隊の剣舞や二本松提灯祭りのおはやし、福島を代表する踊りのフラガールによるハワイアンダンスなどを演じました。自慢の日本酒、福島の地酒の振る舞いもあつてか大変盛り上がりみせた時間でした。

翌日の分科会は11会場を設定しましたが10分科会がホテル内で実施でき好評でした。また、メインとなった「フィールドワークバスツアー・原発事故被災地飯館村視察」には130名の参加があり、バス3台に分乗して著名な講師3名からの話を聴いての研修でした。人が住めなくなり荒廃した村の姿に誰もが驚きを隠せず、一応に「現場を見なければ事故の様子は語れない。原発の問題についても真剣さが増した」と感想を述べ、良い企画であったとお褒めの言葉を頂きました。

私たち福島県内の加盟園はこの大会を通して一致協力することの大切さを改めて知り、同時に団結すればこのような大きな仕事もできるといふ大きな自信を頂きました。これからの組織の充実、会の発展につながる仏教保育の絆をいただき有り難く思っています。

皆さまご協力本当にありがとうございました。

智山保育連合会

「第54回智山保育大会」報告

智山保育連合会事務局



智山保育連合会では、毎年夏の時期に真言宗智山派寺院付属の幼稚園と保育園に従事する園長・設置者・保育士を対象に研修会を開催しております。本年度は、7月23日(土)に総本山智積院別院真福寺を会場として本宗寺院付属の幼稚園・保育園15園、約100名が集い開催しました。

開会式では、緑谷一雄師(日本仏教保育協会理事長)はじめ、安藤文隆師(真言宗豊山派保育連合会会長)、芙蓉良英師(真言宗智山派宗務総長)にご来賓のご挨拶を頂戴しました。また、各加盟園に於いて幼児保育に長

く従事された保育士・教諭の功績を讃え「永年勤続者表彰」を行い、開会式を終了しました。

第1講は、高橋英心師(真言宗智山派長樂寺御内)より、写仏のご講義を頂戴しました。参加者は写仏の線を描くたびに、仏さまのお姿に近づいていくことで、仏さまと見守られていることを実感するよう一生懸命取り組まれていました。その後、虎ノ門ヒルズにて懇親会(昼食)を行いました。例年とは趣向を変え、立食パーティ形式での開催でしたが、参加者は美味しい料理に舌鼓を打ち、終始賑やかな懇親会とな

りました。

第2講は、徳永隆昭師(真言宗智山派成心院御山主・別院真福寺職員)より「躰、今、昔」というテーマにてご法話を頂戴しました。「躰」というとても難しい内容でしたが、平易な言葉でとてもわかりやすいお話に参加者は引き込まれ、30分という時間が非常に短く感じた参加者も多くみられました。

第3講は、諸橋精光師(真言宗豊山派千蔵院御山主)より「紙芝居で伝える仏の教え」というテーマにてご講義を頂戴しました。オリジナルの大きな絵と語りで物語を表現した「超大型紙芝居」を上演いただきながら、先生の創作活動への想いや紙芝居の魅力、そして、子供たちのちいさな心にも備わる「仏の心(仏性)」に語りかけ、伝える楽しさと大切さをお話いただきました。

すべての研修プログラムを終え、最後の閉会式では笹沼弘憲師(真言宗智山派教化部長)にご挨拶を頂戴し、大会は盛会の内に終了しました。

末筆ではありますが、限られた時間の中で講師をお勤め頂きました先生方と会場をお貸し下さった別院真福寺の皆様にご感謝を申し上げます。報告とさせていただきます。

日蓮宗保育連盟

「第62回日蓮宗保育研修京都大会」を終えて

日蓮宗保育連盟 事務局長
横川 和克 (橋保育園・茨城県筑西市)

日蓮宗保育連盟主催の平成28年度第62回保育研修京都大会は『慈悲のこころ』『だきしめよう』

!! 未来を担う小さないのちの研修テーマのもとに、7月30日、31日の二日間、京都府京都市「大本山妙顯寺」「グランドプリンスホテル京都」「国立京都国際会館」を会場に開催された。妙顯寺での保育研修の開催は、まさに54年ぶりであり、日本全国から連盟加盟の幼稚園、保育園、認定こども園、大学等より242名の設置者、園長、教諭、保育教諭、保育士、職員等が参加した。

大会一日目、開会式では参加者による宗歌「立ち渡る」、仏讃歌「蓮の花」の斉唱、大本山妙顯寺貫首三田村日正猊下を導師に法味言上が厳修された。

また、主催者 荒居養雄理事長の挨拶後、日蓮宗宗務総長 小林順光猊下によりご祝辞、大本山妙顯寺貫首三田村猊下により歓迎の辞を頂戴した。

その後、永年勤続者(管長表彰30年:3名、理事長表彰20年

:1名、10年:5名)の表彰、記念写真撮影と続き、開会式は閉式した。

続いて行われた三田村貫首猊下の記念法話では、「宗門運動のテーマである」《命に合掌》とは、仏さまに守られてある今に感謝すること。みんなが元気に楽しく過ごせるように祈ることが大事です」とご教示いただいた。

記念講演では立命館大学教授・立命館小学校校長顧問の山英男氏が登壇。「常識を破つて子どもを伸ばす」と題して陰山氏は、「子どもを伸ばすには、早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が大事。小さいうちからよく食べよく寝て自然のなかでのびのびと遊ぶこと」と述べ、子どもの能力や学力をあげるためには「集中力を養うこと」と強調。正しく集中するコツとして

「緊張は集中力を妨げ、人を委縮させる。リラックスを生み出すのは何よりも親や教師、指導者の笑顔。親や教師の笑顔に比例して子どもは伸びていく」と



締めくくった。
また、記念講演と並行して別室にて開催された定例総会では、予定の議案はすべて承認された。
夕食の懇親会では、舞妓さんの踊り、地元の先生方によるじゃんけんゲーム、吉本興業所属の芸人川上じゅん氏による腹話術などの余興があり、会場は大いに盛り上がった。
大会二日目、京都市蓮久寺住職・三木大雲上人の晨朝法話「怪談説法」でスタート。三木上人は怪談をまじえ「損得で生きるのはなく、美徳の徳で生きる大切さを幼児教育で教えていくことが必要」とお話しされた。

次に「あそびの世界の誘い」と題した記念講演。佛教大学教育学部教授・高橋司先生によるパネルシアターと、シンガーソングライター・ポンちゃんによる歌遊びが披露され、会場は大らかな笑いと感動であふれた。
閉会式では、参加者を代表して茨城県たちばな保育園成島美奈子先生から謝辞があり、続いて来年、第63回高知大会の開催地・高知市筆山保育園橋田文妙先生から挨拶をいただき、本大会は無事閉会した。
保育連盟各園では、ほとけの子の育成と未信徒教化を柱に、今後とも社会教化事業に取り組んでいきたい。

浄土真宗本願寺派保育連盟 「第54回まことの保育講座」報告

副理事長 高輪 真澄

浄土真宗本願寺派保育連盟では毎年8月18日から20日まで京都西本願寺にて「まことの保育中央講座」を開催しています。今年も本願寺阿弥陀堂並びに聞法会館で、北海道から鹿児島まで、各地から集まった経験3年以上の保育者54名が参加しました。この講座は基調講演並びに真宗基礎講座をはさみながら7〜8名の班別討議を行いながら、自分の持っている課題を解決していく、そしてそこから新たな「気づき」を導き出そうとする講座です。
今年の基調講演は、元岐阜聖徳学園大学教授の荒木照子先生の「いのちの豊かな響きあいを支える保育のあり方」というお話でした。子ども・保育者・保護者が互いに響きあひながら育っていくことの大切さを話され、保育のエピソード記録や生活・遊びのあしあと表など実例を挙げながら、記録していくことの大切さを語られました。
真宗基礎講座は龍谷大学講師の小池秀章先生から「浄土真宗のみ教えを学ぶ」と題してお話

していただきました。

参加者はこうした講義や班別討議の中から「まことの保育」について深く考え、理解することができたと思います。そして自分一人じゃない、全国にこんな大勢の仲間がいることを実感したことでしょう。これからは自園に戻って子どもたちと保護者として同僚と、実際の保育に生かしていつてもらいたいと思います。



暑中見舞

(敬称略)

園長 根本 定子 東京都中野区沼袋3・21・7 電話 03・33385・0017	園長 露木 正道 東京都江戸川区一之江6・19・10 電話 03・3656・5636	園長 森 義昭 京都市北区紫野大徳寺町74 電話 075・491・8818	認定子ども園 あずま幼稚園 日仏連盟運営・園理長 榎口威道 榎口明道 〒146・0084 東京都大田区南久が原2・30・5 電話 03・3756・0505	日仏保理事 園長 丹羽 義昭 埼玉県草加市遊馬町430 電話 048・925・1741
---	---	--	--	---



事務局日誌

8 / 17 ~ 20	真宗大谷派夏期講習 (真宗教化センター・東本願寺)
8 / 18 ~ 20	浄土真宗本願寺派「第54回まことの保育中央講座」(本願寺)
8 / 25	こどものくに「チューリップ版」企画会議
8 / 26	真言宗豊山派教員研修会(護国寺)
8 / 27 ~ 28	天台宗保育全国大会(博多グリーンホテル)

「話題を二つ」

◆過日、書店に平積みされた『聞いてびっくり「あの世」の仕組み』という奇妙なタイトルの本が目についた。著者は予知能力者・松原照子さんという。「死」を考えることは「生」を考えること。「死」を知れば「いかに生きるか」を考えられる、という序章につられて、つい買ってしまった。信じる、信じないはともかく、2、3紹介しよう。

曰く『あの世ではまず、自らの人生を振り返る映像を見る』、曰く『あの世に行っても、五感のうち、嗅覚と味覚は生前と同じ』、曰く『あの世はすべて自己管理の世界。タラタラ過ぎしても怒られない』etc…。ざっと目を通したが、「この世で悪さをすると、あの世で怖い思いをする」と感じたりもした。

◆今、日本中に『空き家』が急増しているようだ。総住宅数に占める割合は13・5%という。核家族化が進み、取り残された父母らが亡くなると住む者は誰もいない。やがて廃屋となり、倒壊の危険性を帯びてくる。「空き家条例」などのルール作りに取り組み自治体が増え、政府もついに住宅基本計画の中に「空き家の利活用促進」を盛り込んだ法案を閣議決定した。
なぜか寂しい話題である。

編集後記

■雨に風、牙を剥いた大自然が列島を食い荒らした暑い夏がようやく去り、草むらから鈴虫、松虫など「秋の虫」の季節が訪れてきました■それにしても、夏とは人の心を狂わせる妖気をもたらせるのでしょうか。埼玉県松山市で見つかった少年の遺体は、中学生を含む5人の少年の犯行だったとのこと。昨年、川崎市で起きた事件を再現するかのようです。絶えない未成年同士の事件には、やりきれない思いです■中学生の自殺が4年連続増加し過去最多、という報道に「どうして?なぜ?」と、心は千々に乱れます。国内全体での自殺者は減少したが、中高生の自殺は増えており、しかも長期の休み明けに集中する傾向があるようで、夏休み明けが最も多いということ。教員向けの予防教育研修も各地で行われているようではありますが……■この夏、中教番で議論された幼稚園教育要領改訂、保育所保育指針改定に向けた中間まとめが公表されました。かなり具体的な方向性が示されています。今後の検討が期待されます■いろいろあった夏でしたが、秋の夜を心地よく一献傾けながら名月の美しさに酔いれる……、そんなゆとりを持ちたいものです。
(O・I)

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011東京都港区芝公園4-7-4
ホームページ <http://www.buppo.com/>
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
毎月1回1日発行(1部315円)



仏教保育綱領

慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面)○四つの門(13場面)○おさとり(16場面)○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600)※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2x26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版